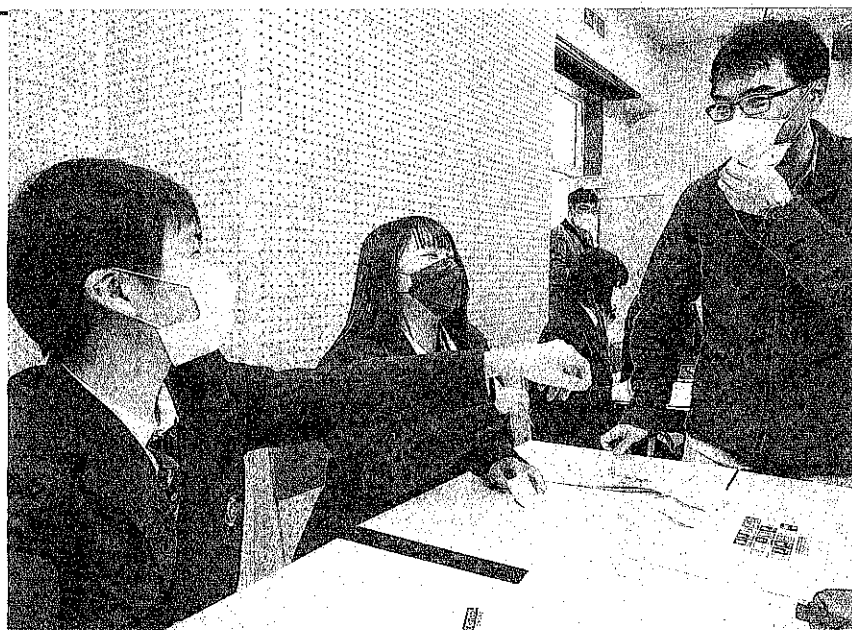


石井一英教授（右）の助言を受けながらワークショップに取り組む生徒たち



【白糠】白糠高の1、2年生約40人が、国連の提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」について北大の研究者から学ぶ特別講座が、同校で開かれた。

大地みらい信用金庫（本店・根室市）や北大などが10日に実施。同信金と北大は2011年、釧路・根室管内の人材育成や地域活性化に関する連携協定を締結。以降、北大の研究者を釧根の学校に招いた特別講座を年1回開いている。白糠高がSDGsについて生徒に伝えてほしいと要望したため、今回、SDGsに詳しい石井一英教授（51）＝環境工学＝が講師を務めた。

講座で石井教授は、SDGsが

循環型社会 白糠高生学ぶ

北大教授がSDGs特別講座

目指す社会の一つは「持続可能な循環型社会」だと説明。家畜ふん尿から電気を生み出すバイオマス事業で地元のエネルギーをまかなっているドイツの村の事例を紹介し、「地域で使うエネルギーを輸入に頼らず、地域で作れば、お金が地域の中で回り、地域産業も潤う」と、SDGsが地域活性化につながることを強調した。

その後、生徒たちは班ごとに、SDGsに関連したイベントを企画するワークショップに取り組んだ。2年の菊地剛佑さん（17）は「循環型社会に対する理解を深められた。その社会を実現できる取り組みを実践していきたい」と語った。

（松井崇）

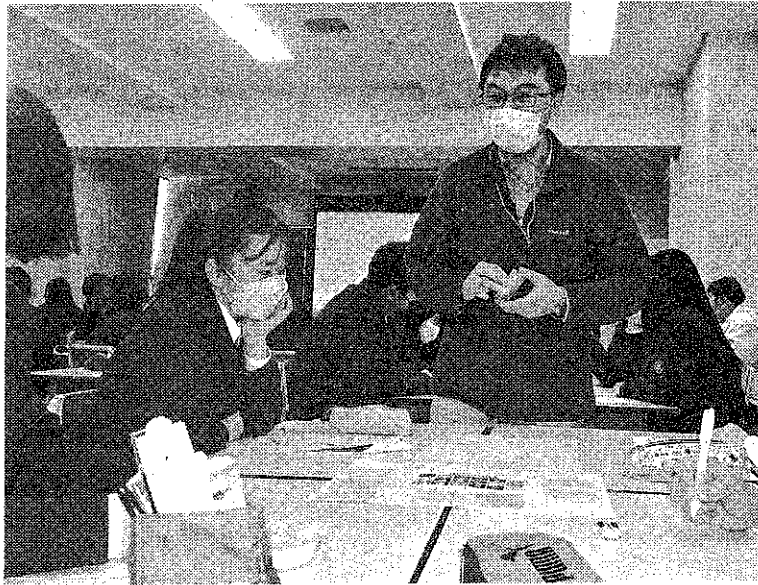
白糠高

SDGsの意義、目的学ぶ

北大 石井教授招き出前教室

【白糠】大地みらい信用金庫（本社根室市、遠藤修一理事長などは10日、北海道大学大学院工学研究院の石井一英教授を招いた特別出前教室「みんなで考える地域のSDGs（持続可能な開発目標）」を白糠高校で開いた。1、2年生37人がSDGsの意義や目的などについて学んだ。

（水谷友路）



各グループを回ってアドバイスする石井教授

同大学産学・地域協働推進機構との連携事業の一環としており、各校のニーズに合った講師を北大から派遣している。11回目となった今回は、石井教授がスライドで写真や図を交えながら解説した。

3、4人のグループでSDGsの視点から各目の行動を見直し「賞味期限や消費期限の短い食べ物から購入する」「シャワーを浴びる時間が長いので、節水する」などと発表した。最後は同じグループで、SDGsの視点で地域を見直すイベントを企画。

「ジェンダーレスの商品を置いたコンビニ」「お残し禁止の食堂」などさまざまなアイデアが飛び出た。石井教授は「少しでもこの地域の人のためになることを考えてほしい」と締めくくった。

菊地剛佑さん（2年）は「循環型社会などについて

深く理解できたし、個々の考えに驚きや発見があった。リユースなどできることを実践していきたい」と話していた。